

桐生市議会 経済建設委員会 行政視察報告書

視察都市	長野県長野市（人口 363, 343 人）令和 6 年 4 月 1 日時点
視察日時	令和 6 年 5 月 10 日（金） 午後 1 時 30 分 ～ 午後 3 時 15 分
訪問場所	〒381-3205 長野県長野市中条住良木 1558-2 Tel : 026-268-3450
参加者	久保田裕一 飯島英規 丹羽孝志 人見武男 岡部純朗 福島賢一 小島強
視察項目	・長野市ジビエ加工センターについて

■視察概要

視察項目 ・長野市ジビエ加工センターについて

○説明担当者及び対応者

長野市 農林部 森林いのしか対策課 所長 清水 秀典 様
係長 宮尾 哲也 様

（１）説明要旨

①長野市ジビエ加工センター施設について

・設置目的

農作物に被害を及ぼし有害鳥獣として捕獲されたイノシシとニホンジカは、地下に埋設処理等が行われていました。これらの個体を新たな地域資源“ジビエ”として無駄なく有効活用して、農業被害及び捕獲者の労力軽減につなげ、かつ、中山間地域の活性化を図ることを目的としています。

- ・ 運営開始日と設置地区

平成 31 年 2 月、長野市中条地区にジビエ加工センターを設置し、同年 4 月より運営を開始しています。

- ・ ジビエ販売までの歩み

平成 28 年 11 月：長野市ジビエ振興計画の策定

平成 29 年 2 月：建設場所の決定（長野市中条地区）

平成 30 年 3 月：農林水産省がジビエ利用モデル地区に選定

平成 30 年 7 月：ジビエ加工センター工事着手

平成 31 年 2 月：ジビエ加工センター竣工

平成 31 年 4 月：ジビエ加工センター稼働

（6 月まで試験稼働、7 月から本格稼働）

令和元年 8 月：「国産ジビエ認証」及び「信州産シカ肉処理認証」を取得

令和元年 10 月：事業者向けに本格販売を開始

（ペットフード用ジビエは令和元年 7 月～販売）

- ・ 施設運営体制

長野市直営であり、職員 8 名体制で運営をしています。勤務体制は正規職員 2 名、会計年度職員 3 名、繁忙期 3 名となっています。

- ・ 施設運営時間

令和 5 年度より定休日なしで運営しています。ただし、お盆と年末年始は休館としています。（令和 4 年度までは月曜日を定休日としていました。）

営業時間は午前 8 時から午後 4 時 45 分としています。個体の受け入れは午後 1 時 30 分としています。

- ・ 構造

鉄骨造平屋建（約 330 m²）

- ・ 工事費

総工事費は、約 3 億 5,400 万円です。国の鳥獣被害防止総合対策交付金（1 億 2,000 万）を活用しています。

- ・ 主な施設設備

解体室、熟成室、処理室、冷凍室があり、スライサー、ミンチ、真空パック、金属探知機、放射能濃度測定システム、電解水生成装置、商品管理システムが完

備されています。

・捕獲実績について

令和5年度の総捕獲頭数は、イノシシ916頭、ニホンジカ1,569頭であり、加工センターへの持ち込みは、イノシシ0頭、ニホンジカ849頭でした。このうちセンターで利用できなかったニホンジカ10頭でした。

令和元年度の総捕獲頭数は、イノシシ1,337頭、ニホンジカ1,067頭であり、加工センターへの持ち込みは、イノシシ601頭、ニホンジカ521頭でした。このうちセンターで利用できなかったイノシシ370頭、ニホンジカ123頭でした。

年々、状態のよいニホンジカを搬入されるようになっていきます。

・設置場所について

長野市の東にある豊野に移動解体処理車を配備し、ジビエ加工センターに搬入する計画があったが長野市の西にある中条の加工センターへの直接搬入となっています。

・施設収支について

令和4年度の決算において、総収入1,786万円(ジビエ販売収入)、総支出2,680万円(施設経費)となり、約900万の赤字となっています。年々、赤字は減少傾向にはあります。

・ジビエ普及促進の主な取り組みについて

i) 捕獲従事者の労力軽減につながる取組について

ニホンジカの個体収集方法についての改善(埋設処理頭数の改善及び供給量の確保)を検討しています。各猟友会との意見交換を行っています。

その結果、令和5年度は総個体数849頭の内54%が加工センターに搬入されています。令和4年度は総個体数779頭の内53%が加工センターに搬入されています。年々、個体数の増加と搬入割合が増加しています。

ii) 学校給食でのジビエ提供による普及促進

加工センター発足時は、特にジビエ消費が少ないので、長野市内の学校給食での消費がメインでした。令和5年度、学校給食でのジビエ提供状況は、125,000食となっています。学校給食の利用者は約3万いますので、提供回数は、年4回程度となっています。給食で提供されたジビエ献立内容は、ポロネーゼ、鹿肉カレー、鹿肉のケチャップ和え、ビビンバ、メンチカツ、コロケ、タコライス、ミートソースなどとなっています。

iii) スペシャルジビエプロジェクト「ながのジビエ普及促進事業」の実施

このプロジェクトは、10代～20代の若い世代をターゲットとしています。特に10代～20代の女性を中心にしたプロジェクトとしています。ジビエが消費し続ける環境を作ることを目的としています。

ジビエは、臭くて固いという潜り観があったため、学生さんにはこれらの観念を払拭してもらいために、当局としては、一緒に美味しく見た目も可愛い食べ物をメニューとして開発し、プロモーション（宣伝、PR）をしてもらいたいという思いがあります。

長野市内では、ジビエを食べる文化はありません。先入観として、ジビエは固くて臭いというイメージがあります。ジビエは、高価な食材なので、都市へのPR活動が必要となっています。一番効果のあった取り組みは、小中学校で美味しいジビエ料理の給食を提供したことと考えています。子供たちは、ジビエを美味しい食べ物のイメージとして定着してきています。今後も、ジビエを食べ続けてくれると考えています。

ジビエイベント開催初期では、年配の方はジビエが固くてくさいというイメージが強く、ジビエを食べて頂けない方もいました。

公務員は、物販が苦手なので、物販に関して流通を専門に行っていた方への業務委託を行い販路の確保をしています。去年から売るジビエがない状況が続いています。今後の課題として、主力ハンターの高齢化と埋設個体数が問題となっています。

- ① 2040年を見据えた長野市の未来像を実現するために、令和3年から令和5年までの3年間、長野市戦略推進アドバイザーを土山浩平氏と連携し、ながのジビエのブランド化を推進しています。
- ② ジビエの栄養価に着目し、その特徴を生かした開発料理の検討とジビエ普及活動を長野県立大学と連携しています。

○実施したイベントについて

- ・善光寺御開帳 2022年日本一の門前町大縁日でのジビエPR活動として鹿メンチボール配布と土山氏及び県立大学生によるステージ発表を行っています。
- ・ジビエフェア IN ソフトバンク社でのジビエPR活動として長野市長によるトップセールスを行っています。主に土山氏及び県立大学生が開発したジビエ料理の提供と鹿肉加工品の販売を行っています。
- ・善光寺表参道イルミネーションでのジビエPR活動として県立大学生による鹿メンチボールの配布の実施を行っています。
- ・八幡屋磯五郎と連携して県立大学生と開発した冬季限定ジビエメニューの提供を行っています。

施設見学



運搬車両庫内の洗浄場 ↑



洗浄処理中 ↑



皮剥ぎ処理後 ↑



ジビエ加工品 ↑

(2) 主な質疑応答

久保田議員より質疑

Q. 加工センター開設時の廃棄頭数が多い原因は何でしょうか？

A. 当局より、どんな状態の個体でもよいので搬入するようにお願いしていたためと考えています。ハンターの方々も搬入できる個体の判断の精度も。徐々に、あがってきています。

Q. 廃棄の個体は、どのようなものがありますか？

A. 止差しが胴体部に届いている個体、匂いの強い個体、時間がたった個体など

Q. 加工センター施設での年間、処理能力はどのくらいありますか？

A. 年間 1,000 頭は可能です。ただし、時期において捕獲頭数にばらつきがあり、昨年の実績では、6月 174 頭、2月 27 頭でした。多く捕獲される時期は、5～7月、10月と11月、少ない時期が8月と9月、1～3月となっています。

Q. 埋設個体数を少なくするためにどのような取り組みをしていますか？

A. 今年3月より保冷車を配備していない自治体には、加工センター職員が個体を取りに行くことはじめましたが、実績はまだありません。

Q. 埋設個体はどこで行っていますか？

A. 捕獲場所での埋設もありますが石や木の根で穴が掘れないので、埋設場所を共同（猟友会）、個人又は数名で共有しています。

Q. 有害鳥獣駆除証明は、誰が行っていますか？

A. 加工センターへ持ち込まれた個体については、有害鳥獣証明の手続きを加工センター職員で行っています。埋没個体については、各個人で行っています。

Q. 有害鳥獣駆除への補助金は、どのくらいですか？また、どこに支払っていますか？

A. 長野市は、県内一番の高額補助金となっています。令和4年度の補助金は約4,000万円となっています。ジビエ1個体あたりの補助金（県、国合算）と買取金額の合計は、ペットフード用17,200円、食肉用（普通）20,200円、食肉用（優良）23,200円となっています。ジビエ埋設個体は15,200円となっています。

長野市より一括して13か所の有害対策協議会事務局（農協）に支払っています。今年度より、200円増額しています。

Q. 猟友会の会員人数は、何人いますか？

A. 前年度より会員が3名増加して、現在、会員数は379名となっています。

Q. 猟友会への増加理由は、ありますか？

A. コロナ感染症により、勧誘する機会が減っていたが交流会が増えたこと。また、有害鳥獣対策として、市より狩猟免許取得補助金を出していることが考えられます。

丹羽議員より質疑

Q. ジビエは、学校給食へどのように卸していますか？

A. 小規模給食センターでは、加工センターでひき肉にして直接卸していますが大規模給食センターでは、精肉業者が仲介しています。

人見議員より質疑

Q. 現在は、食用規制（豚熱）しているため、イノシシの持ち込みゼロ頭となっていますが今後、食用規制がなくなると加工センターキャパを超えることが予想されますがどのような方針で運営していく予定ですか？

A. 状況にもよりますが各個体種の割合をきめて搬入制限をかけると思います。

その他、福島議員、小島議員より質疑ありました。

(3) 参考となる点及び課題

参考となる点

- ・ジビエ加工センター施設は、市役所が主体となって有害鳥獣対策の一部として鹿とイノシシの食肉処理を行っていること。
- ・捕獲直後から捕獲手順書に従い処理を行い品質の維持に努めていること。
- ・補助金の交付申請において、本施設に搬入された個体については、施設職員で申請を行っていること。
- ・主要な地区には、罟で確保された有害鳥獣解体作業及び一時保管が可能な車両1台もしくは運搬作業車1台が準備されていること。(運搬用車両7台、解体可能車両1台を保有)
- ・食肉に適合しない有害鳥獣がもちこまれることもあるが施設で廃棄処理を行っていること。
- ・ジビエ料理を小中学校の給食で提供し、子どもたちには美味しい食品で認知されていること。
- ・ジビエ販売経路を確保していること

今後の課題

- ・ハンターが高齢化していること。
- ・販売用食肉が不足していること。
- ・埋設個体数が多いこと。

◎視察成果による当局への提言または要望等

「害獣」とされる野生動物（鹿やイノシシ）が、新たなジビエという食文化を形成できるための地域支援を要望します。特に、小中学生には、ジビエを美味しい食材であると理解できる環境整備を求めます。また、地域の方々には、食生活を豊かにしてくれる味わい深い食材であることと中山間地域を活性化させてくれる地域資源であることの啓発活動求めます。

桐生市において有害鳥獣を食肉として活用できるような環境づくりの支援及び民間の加工工場の誘致を提言します。